

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 5 月 24 日現在

機関番号：14101

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2011～2014

課題番号：23531251

研究課題名(和文) 小学校の外国語活動における遠隔会議を活用したESD(持続発展教育)の教材開発

研究課題名(英文) Development of Education for Sustainable Development lesson plans using videoconference in elementary school foreign language activities

研究代表者

永田 成文(NAGATA, Shigefumi)

三重大学・教育学部・教授

研究者番号：40378279

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,900,000円

研究成果の概要(和文)： ESDは社会・文化、環境、経済の3つの領域がある。本研究では、低学年で外国の児童に近隣の地域の社会・文化領域のテーマを日本語で伝える、中学年で身近な地域の環境領域のテーマを英語のフレーズで伝える、高学年でグローバルな視点から3つの領域のテーマを英文で伝えるという、小学校の外国語活動における遠隔会議を活用したESD教材を開発した。ESD教材を小学校で実践し、その前後においてアンケート調査を行った。低学年から高学年まで系統的にESD教材を学習した児童は、異文化コミュニケーション力と持続可能な社会を形成する意識が高まった。

研究成果の概要(英文)： The contents of Education for Sustainable Development (ESD) have three domains: society and culture, environment, and economy. This study's researcher developed an ESD lesson plan using videoconference corresponding to the developmental stage of elementary school students. Lower school year students reported to foreign students on the theme of society and the cultural domain of a neighborhood region by using Japanese. Middle school year students reported to foreign students on the theme of environment domains of familiar regions using English phrases. High school year students reported to foreign students on the theme of three domains from global viewpoint using English sentences. The researcher conducted ESD lessons and administered a questionnaire survey before and after the lessons. Student's cultural communication ability and consciousness regarding sustainable society were enhanced by studying ESD lessons systematically from lower to higher school years.

研究分野：社会科教育学

キーワード：遠隔会議 ESD 小学校 外国語活動 教材開発

1. 研究開始当初の背景

2002年に日本政府は「国連持続可能な開発のための教育の10年」(2005-14)を提案した。これを受け、政府関係省庁連絡会議は『わが国における「国連持続可能な開発のための教育の10年」実施計画』を公布した。これらの「あらゆる教育活動において推奨事例を開発する」という目標に即応して、発達段階に応じたESD教材を開発することが求められた。

教育振興基本計画(2008)では、学校教育におけるESD(持続発展教育)が重要施策として示された。また、2008年版小学校学習指導要領では、社会科において持続可能な社会の実現を目指すなど、公共的な事柄に自ら参画していく資質や能力を育成すること、高学年の外国語活動において、コミュニケーション力の育成と言語・文化の理解が示された。

従来から約9割の小学校において、総合的な学習の時間(以下総合学習と表記)などを活用して、高学年を中心に外国語会話などが実施されていた。この外国語会話では、外国の生活や文化などに慣れ親しんだりする体験的な学習も求めていたが、単なる英会話学習になっている場合が多かった。

2. 研究の目的

コミュニケーション力の育成や国際理解の学習を行うことは、高学年のみで行うのではなく、小学校の全学年で計画的に実施していく必要がある。本研究では、小学校低学年の生活科におけるコミュニケーション活動、中学年の総合学習における外国語会話、高学年の外国語活動の全段階を含めて、小学校の外国語活動ととらえる。また、小学校における従来の国際理解から持続可能な社会を実現するためにESDの内容に着目した。ESDと外国語活動の連携方策として、諸外国の人々と意見交換を行う遠隔会議の活用を考えた。このため、ESDの内容を担当する社会科地理教育とコミュニケーションを担当する英語教育を連携させた。

ESDの内容には、人と人との関係をとらえ、多文化共生の価値観から持続可能な社会の形成を考える社会・文化領域、人と環境との関係をとらえ、環境保全の価値観から持続可能な社会の形成を考える環境領域、人と社会との関係をとらえ、社会公平の価値観から持続可能な社会の形成を考える経済領域がある。この3領域に属する内容が学習者の発達段階に適合しているのか、遠隔会議で伝えることができるのか、持続可能な社会を意識できるのかについて検討する必要がある。

本研究の目的は、小学校の外国語活動において、地理教育と英語教育が連携した遠隔会議を活用し、異文化コミュニケーション力の育成とともに持続可能な社会の形成に向けた行動の変革を促すような発達段階に応じたESD教材を開発することである。

3. 研究の方法

三重大学の地域連携校である津市立北立誠小学校において、担当学年の教員が社会科や総合学習でESDに関わるテーマの学習を進め、その内容の一部を大学の社会科地理教育の教員が担当する。外国語活動として伝えたいことを英語で表現するために、小学校と大学の英語教育の教員が連携してコミュニケーション指導を行う。遠隔会議のパートナーとして、シドニー郊外のCoogee public school(クージー小学校)を設定し、遠隔会議において社会科の学習を中心に発表してもらうようにした。

本研究の計画期間の4か年で、遠隔会議を活用した外国語活動におけるESDの教材開発を行い、小学生の発達段階に応じたESDの内容とコミュニケーション活動を提案する。具体的には、開発教材の有効性を継続的に分析するために同じ児童集団を対象とし、初年度は第2学年を、以後年度ごとに1学年上げていく。また、ESDの内容や単元構成によるESD教材について評価するために、毎年第6学年においても授業実践を行う。

23年度：小学校第2学年における生活科をベースにした遠隔会議を活用したESD教材の開発と分析 日常の学校生活について簡単な英単語を示し，日本語を使って伝えたいことを外国の児童に伝える。

24年度：小学校第3学年における総合学習をベースにした遠隔会議を活用したESD教材の開発と分析 身近な地域の生活について簡単な英単語と画像資料を使って伝えたいことを外国の児童に伝える。

25年度：小学校第4学年における総合学習をベースにした遠隔会議を活用したESD教材の開発と分析 地域の生活について簡単な英語のフレーズと画像資料を使って伝えたいことを外国の児童に伝える。

26年度：小学校第5学年における外国語活動をベースにした遠隔会議を活用したESD教材の開発と分析 日本の生活について簡単な英文と画像資料を使って伝えたいことを外国の児童にわかりやすく伝える。

23～26年度：小学校第6学年における外国語活動をベースにした遠隔会議を活用したESD教材の開発と分析 地球的課題について英文と画像資料を使って伝えたいことを外国の児童にわかりやすく伝える。

各年度の実践は)実態把握)実践活動)実践検証のステップを踏んでいく。

異文化コミュニケーション力を育成し，持続可能な社会を形成する意識を高めるESDテーマと遠隔会議の活用を検討する。

社会科地理と英語教育が連携し，発達段階に応じた遠隔会議を活用したESD教材を開発し，小学校で実験授業を行う。

遠隔会議に参加した児童の様子や事前・事後のアンケート調査の分析から，異文化コミュニケーション力の育成，持続可能な社会を形成する意識の高まりという視点からESD教材の有効性を検討し，学習内容，学習方法を適宜改善する。

4．研究成果

(1)平成23年度

第2学年において，生活科の近隣の地域の探検や人々との交流について遠隔会議で伝える社会・文化領域のESD教材を開発した。大学教員は，オーストラリアの小学校の紹介や地図・地球儀指導や簡単な英単語の指導を行った。北立誠小学校の児童は探検先や交流先から12グループに分かれ，伝えたい内容を端的に表す英単語の入ったパワーポイント資料に合わせて日本語で発表した(通訳者が英語訳)。クージー小学校は，生活における友好・寛容・受容の大切さについて劇と歌で発表した。児童は大きな声で発表し，地域と交流することの大切さを意識することができた。

第6学年において，総合学習と外国語活動が連携して，身近な地域の企業におけるCSR(企業の社会的責任)の取り組みについて遠隔会議で伝える経済領域のESD教材を開発した。大学教員は，オーストラリアの紹介や様々な国の指導や英文指導を行った。北立誠小学校の児童は地域の企業により8グループに分かれ，小学校教員が中心となって作成した英語のパワーポイントの資料に合わせて英語で伝えた(質疑応答は通訳者が英語訳)。クージー小学校は，バランスよい栄養の摂取について，パワーポイント資料と歌で発表した。児童は身近な企業がどのように社会に貢献しているのかについて英語で伝えようとした。

(2)平成24年度

第3学年において，社会科と総合学習が連携して，人に優しいまちづくりについて遠隔会議で伝える社会・文化領域のESD教材を開発した。大学教員は，ユニバーサルデザインや地図活用の指導や簡単な英語フレーズの指導を行った。北立誠小学校の児童は身近な地域の配慮ごとに12グループに分かれ，英語のフレーズが入ったパワーポイントの資料に合わせて，グループで英語を使って発表した。ク

ーギー小学校は、オーストラリアの年間行事や祝日についてパワーポイントを中心に発表した。また、お互いのテーマについても伝え合った。児童は手話などを活用して伝え、地域での人々への配慮の大切さを意識できた。

第6学年において、総合学習と外国語活動が連携し、地域の自然災害と防災の取り組みについて遠隔会議で伝える環境領域のESD教材を開発した。大学教員は、地図を使った防災や防災の実験や地域の変化の授業や英文指導を行った。北立誠小学校の児童は家庭・学校・地域の防災の取り組みから10グループに分かれ、小学校教員が中心となって作成した英語のパワーポイントの資料をもとに英語で伝えた。クーギー小学校は、ファッション・食べ物・絵画についてパワーポイント資料や絵をもとに発表した。また、お互いのテーマについても伝え合った。お互いのテーマについても発表し合ったため、児童は伝え合うことと防災に対する意識を高めることができた。

(3)平成25年度

第4学年において、社会科と総合学習で身近な地域の環境保全について遠隔会議で伝える環境領域のESD教材を開発した。クーギー小学校は、アボリジニの歴史と芸術についてパワーポイントと絵で発表した。大学教員は、アボリジニの文化や地球温暖化の授業や伝えたいことの英文指導を行った。北立誠小学校の児童は環境保全の取り組みによって6グループに分かれ、簡単な英文と写真や絵の入った小学校教員が中心となって作成したパワーポイントの資料に合わせて、カタカナ読みの英語で伝えた。児童は環境保全の大切さについて、英語で伝えようと努力した。

第6学年において、社会科と総合学習と外国語活動が連携し、電気の持続的利用について遠隔会議で伝える環境領域のESD教材を開発した。大学教員は、4時間の電気の持続的利用の社会科授業と地球温暖化の授業や伝えた

い内容の英文の指導を行った。北立誠小学校の児童は発電方法などから12グループに分かれ、小学生が中心となって作成した英語のパワーポイント資料をもとに英語で伝えた。クーギー小学校は、オーストラリアの環境保全について、グリーンエネルギーの内容も含めてパワーポイント資料で発表した。児童は電気の持続的な利用のためにどのような発電が適しているのかを英語で伝えようとした。

(4)平成26年度

第5学年において、社会科と総合学習で日本の自然災害について遠隔会議で伝える環境領域のESD教材を開発した。大学教員は、地域の防災や環境の特色の授業と伝えたい内容の英文指導を行った。北立誠小学校の児童は日本の自然災害や避難方法によって12グループに分かれ、災害や防災の取り組みのイラストや写真が入った小学校教員が中心に作成したパワーポイントの資料に合わせて英語で伝えた。クーギー小学校は、地域の未来の公園の改変についてパワーポイントで発表した。児童は安全な生活に向けて備える大切さについて英語で伝えることを意識できた。

第6学年において、総合学習と外国語活動の連携により日本の伝統文化について遠隔会議で伝える社会・文化領域のESD教材を開発した。大学教員は、日本の伝統文化や外国との文化のつながりの授業や伝えたい英文の指導を行った。北立誠小学校の児童は修学旅行で見聞きした伝統文化を中心に16グループに分かれ、小学生が中心となって作成した英語のパワーポイントの資料に合わせて英語で伝えた。クーギー小学校は、オーストラリアの政治についてパワーポイント資料で発表した。児童は日本の伝統文化のどこがよいのかという内容にこだわり、単に英語を読むのではなく、伝統文化を継承していくことを意識しながら英語で伝えることができた。

(5) 成果と課題

発達段階に応じた遠隔会議を活用したESD教材として、身近な地域の社会・文化 身近な地域の環境 日本の環境という児童の生活実態に即したテーマを設定して開発した。児童は持続可能な社会を実現するための活動の大切さについて意識できた。児童は日本語で伝える 英語のフレーズで伝える カナカナ読みの英語で伝える 英語の一文を伝えるコミュニケーションを行うことができた。

第6学年では経済領域、環境領域、社会・文化領域のそれぞれのテーマの内容について、児童は持続可能な社会の形成を意識しながら英語で伝えたいことを表現できた。また、児童が画像資料を作成できるようになった。

児童の様子やアンケートの分析から、単発で遠隔会議を活用したESD教材を実施するよりも、低学年から高学年に向けて系統的に実施する方が、児童の持続可能な社会の実現に向けた活動や異文化コミュニケーションの大切さをより意識できることがわかった。

ESDを意識させる特別授業や班ごとのコミュニケーション指導や遠隔会議のお互いのテーマ設定など、ESD教材を適宜改善することで、より異文化コミュニケーション力を育成し、持続可能な社会の形成を意識する内容と方法に近づけることができた。

課題として、遠隔会議でお互いの学校が同じテーマに設定することが難しかったことや、児童が遠隔会議時に英語で伝えることに精一杯で、持続可能な社会の内容を伝える意識が弱かったことなどが挙げられる。

本研究の成果は、教科と総合学習と外国語活動が連携する遠隔会議を活用したESD教材のモデル、地理の最新ICT授業、第2言語の習得として、学会や論文・書籍で提案した。

本研究により、小学校におけるESDの導入や外国語活動の活性化が期待できる。今後、カリキュラム研究へと発展させていきたい。

5. 主な発表論文等

[雑誌論文](計 10 件)

永田成文「日本におけるESD推進の現状と課題」『社会科 navi』vol.6, 日本文教出版, 2014, pp.1-4, 査読無

石田尚子・田部俊充「教職課程において博学連携をどのように扱うか - 日本女子大学通信教育課程教職科目『社会科教材研究』を事例に - 」『中等社会科教育研究』No.32, 2014, pp.153-158, 査読有

田部俊充「アメリカ世界地誌Q & A : 企画趣旨 エスニシティ・フードビジネス・グレートプレーンズ・デモクラシー」新地理 62-2, 2014, pp.21-23, 査読有

荒尾浩子「Word Learning for Elementary School Learners of English in Japan」三重大学英語研究会紀要 Philollogia 46, 2014, pp.31-42, 査読無

永田成文「身近な地域の防災を考える小学校における地理ESD授業の開発 - 社会科地理学習と総合学習と外国語活動との連携を通して - 」『地理教育研究』No.13, 2013, pp.1-8, 査読有

永田成文「高等学校地理における社会的論争問題学習の開発 - 多文化共生を視点とした授業設計 - 」『地理教育研究』No.10, 2012, pp.10-17, 査読有

Shigefumi NAGATA, Toshimitu TABE「New Direction of Education for Sustainable Development in Japan」Experience-based Geography Learning, IGU-CGE Symposium 2012 Proceedings, 2012, pp.94-96, 査読有

田部俊充「ICT地理プレミアム授業：日本にいつ上陸するか(3) 主役は、ポリコムの時代！到来の予感：世界の最新ICT地理プレミアム授業」社会科教育 49-12, 明治図書, 2012, pp.120-123, 査読無

荒尾浩子「学習指導要領にみる中学校英語科で育むコミュニケーション能力」異文化情報ネクサス研究会 I'NEXUS No.5 2012, pp.22-27, 査読有

永田成文「系統地理を基盤とした市民性を育成する地理教育の授業構成 - オーストラリアVIC州中等地理を事例として - 」『社会科研究』第75号, 2011, pp.41-50, 査読有

[学会発表](計 10 件)

Shigefumi NAGATA「Geographical Learning

for Fostering Citizenship: Utilizing Geographical Inquiry into Social Dispute Issues」IGU Regional Conference Krakow, (Poland)自由研究発表, 2014.8.22

永田成文「持続可能な社会の意識を高める小学校におけるESD授業の開発-社会科地理学習と総合学習と外国語活動との連携を通して-」2014年度日本地理教育学会第64回大会(横浜国立大学)自由研究発表, 2014.8.10

永田成文「エネルギーの持続可能性を考える小学校社会科授業」全国地理教育学会第7回大会(文京学院大学)自由研究発表, 2013.11.23

田部俊充「小大連携による環境教育活動の取り組み」日本地理教育学会(佐賀大学)自由研究発表, 2013.8.25

田部俊充・永田成文「日本におけるESDの新たな方向性と地理教育における進捗状況」第62回日本社会科教育学会(東京学芸大学)自由研究発表, 2012.9.29

Shigefumi NAGATA・Toshimitsu TABE「New Direction of Education for Sustainable Development in Japan」IGU-CGE Symposium 2012, Freiburg(Germany) ESD session 発表, 2012.8.23

永田成文「諸外国との遠隔会議を活用した生活科における地域と生活に関する学習」日本生活科・総合的学習教育学会第21回全国大会(徳島大学)自由研究発表, 2012.6.9

Hiroko ARAO and Shigefumi NAGATA「The L2 learning effects of intercultural video conferences: in a case of Japanese elementary school learners of English」The 15th International CALL research conference, Taichung(台湾), 2012.5.25

永田成文「小学校社会科と外国語活動の連携によるESD実践-諸外国との遠隔会議を活用して-」2011年度日本地理教育学会2月地方例会(埼玉大会)・獨協大学環境共生研究所シンポジウム(獨協大学)提案発表, 2012.2.18

Shigefumi NAGATA「Developing a Unit for Geography Education from the Perspective of Cultural Understanding in Elementary School: Utilizing Cultural Exchanges through Videoconferencing」2011 National Conference on Geographic Education, Portland(USA)ポスター発表, 2011.8.5

(図書)(計7件)

草原和博・渡部竜也・永田成文他19名『“国境・国土・領土”教育の論争・論点-過去に学び,世界に学び,未来を拓く社会科授業の新提案-』明治図書, 2014, 197p(pp.121-128)

田部俊充「環境教育の周辺領域 関連する諸科学 地理学」水山光春編『よくわかる環境教育』ミネルヴァ書房, 2013, 184p(pp.124-125)

永田成文『市民性を育成する地理授業の開発-社会的論争問題学習を視点として-』風間書房, 2013, 340p

泉貴久・梅村松秀・福島義和・池下誠・永田成文他8人『社会参画の授業づくり-持続可能な社会にむけて-』古今書院, 2012, 134p(pp.52-59)

中山修一・和田文雄・湯浅清治・永田成文他13人『持続可能な社会をめざす地理ESD授業ガイド』啓文社, 2012, 76p(pp.35-37・pp.38-40)

小原友行・池野範男・今谷順重・木村博一・草原和博・棚橋健治・松尾正幸・森才三・永田成文他51人『社会科教育実践ハンドブック』明治図書, 2011, 236p(pp.189-192)

田部俊充・田尻信壹・池俊介・志村喬・深瀬浩三・永田成文他7人『大学生のための社会科授業実践ノート増補版』風間書房, 2011, 168p(田部 pp.27-35・永田 pp.92-96)

6. 研究組織

(1) 研究代表者

永田 成文(NAGATA, Shigefumi)
三重大学・教育学部・教授
研究者番号: 40378279

(2) 研究分担者

田部 俊充(TABE, Toshimitu)
日本女子大学・人間社会学部・教授
研究者番号: 20272875

荒尾 浩子(ARAO, Hiroko)
三重大学・教育学部・准教授
研究者番号: 90378282

(3) 連携研究者

平川 幸子(HIRAKAWA, Yukiko)
広島大学・国際協力研究科・准教授
研究者番号: 80314780